犯罪心理学科科目表

科目の区分		学部共通科目				犯罪心理学基盤科目				犯罪心理学発展科目										卒業研究・卒業論文		学年ごとの人材育成目標
										法心理学領域				犯罪科学領域		犯罪臨床領域		捜査・防犯領域				
必修・選択の区別		必修		選択		必修		選択		必修		選択		必修		必修		必修		選択		必修	
1年次	前期	人間環境学	2	海外大学単位互換科目Ⅰ	2	心理学概論	4			法と倫理	2												学問としての心理学の全体像を理解し、2年次以降の専門的な学修に必要となる基礎知識を修得している。あわせて、心理学の研究法について理解し、実験や調査によって得られたデータの解析に必要となる心理統計の基礎知識を有している。
		基礎ゼミナールⅠ	2	英会話Ⅰ	2	心理学研究法	2															
		キャリアデザイン	2	ドイツ語Ⅰ	2	発達心理学	4															
		情報実習 Ⅰ	1	日本語表現論	2																	
		英語Ⅰ	2	生態系の機能と社会	2																	
				自然地理学	2																	
				海と川の生物学	2																	
				環境情報リテラシー	2																	
				社会環境調査概論	2																	
				現代社会と経済	2																	
	後期	基礎ゼミナールⅡ	2	スポーツ実習	1	心理学統計法	4	教育・学校心理学	2					犯罪心理学概論（司法・犯罪心理学）	4							
		情報実習 Ⅱ	1	英会話Ⅱ	2	心理学とキャリア	2	人間存在論	2													
		英語Ⅱ	2	ドイツ語Ⅱ	2	臨床心理学概論	2															
				芸術文化論	2																	
				言語学	2																	
				環境昆虫学	2																	
				生態系における物質循環	2																	
				環境情報と社会	2																	
				環境リサーチ&プランニング	2																	
2年次	前期			海外大学単位互換科目Ⅱ	1	知覚・認知心理学	2	心理学データ解析	2	刑事政策論	2			犯罪社会学	2			捜査心理学	2				法心理学領域、犯罪科学領域、犯罪臨床領域、捜査・防犯心理学領域の4領域にわたる基礎知識を身につけるとともに、それらの背景にある諸問題について考察することができる。さらに、演習、実習科目において、心理実験、心理検査、および心理調査を経験し、それぞれの研究法について理解を深めるとともに、実験や調査で得られたデータを統計的に分析して仮説検証を行い、導き出された結論について考察することができる。
				英語Ⅲ	2	社会・集団・家族心理学	2	行動科学基礎実験	2													
								学習・言語心理学	2													
								関係行政論	2													
								健康・医療心理学	2													
								公認心理師の職責	2													
	後期			英語Ⅳ	2	感情・人格心理学	2	心理学実験法	2	刑事法	2	供述心理学	2	犯罪行動科学	2	矯正心理学	2			捜査心理学演習	2		
				生物資源学	2			心理検査法実習	2													
				環境と多文化共生	2			心理学文献講読	2													
				データサイエンス概論	2			障害者・障害児心理学	2													
								人体の構造と機能及び疾病	2													
3年次	前期			ビジネスコミュニケーション	2	産業・組織心理学	2	心理演習	2			供述心理学特論（目撃証言の心理学）	2							捜査事例研究	2	総合演習Ⅰ	2	各人の興味・関心に応じて、法心理学領域、犯罪科学領域、犯罪臨床領域、捜査・心理学領域に特化した知識と技能を修得する。これを通して、人の心の働きや行動を科学的に分析する力、目前の問題を多角的な視点からとらえ理論的に考察する力を身につける。
								心理学的支援法	2														
								心理学調査法	4														
								福祉心理学	2														
	後期			キャリア形成演習	1			心理的アセスメント	2							犯罪臨床事例研究	2	防犯科学	2			総合演習Ⅱ	2	
								神経・生理心理学	2														
								精神疾患とその治療	2														
								消費者心理学	2														
	通年							心理実習	2														
4年次	前期															被害者心理学	2					総合演習Ⅲ	2	4年間の学びの総括である卒業研究への取り組みを通して、自己と他者、さらには社会との相互関係について理解を深めるとともに、心理学および犯罪心理学の専門的知識や技能をもって他者と協働して地域社会の要請に対応するカを身につける。
	後期																					総合演習Ⅳ	2	
	通年																					卒業論文	6	
身につく知識・能力		大学で学ぶ専門的な分野の諸課題を総合的にとらえるための学問的基礎を身につける。また、国際化、情報化が進展する社会で活躍するための基礎力を修得する。		グローバルな視野を持ち、国際社会に貢献するための基礎的技能を修得する。また、企業・地域社会などに寄与する活動能力の基礎を完成する。		犯罪心理学発展科目の学びの基盤となる、心理学の主要な領域に関する基礎知識を修得する。		心理学の主要な領域における人間の行動やこころの働きに関わる代表的な科学的知見について理解を深めるとともに、演習、実習を通して、人間の行動やこころの働きを客観的に分析し、その結果を報告するために必要となる知識と技能を修得する。		犯罪心理学を専門的に学んでいくために必要となる、法に関する基礎知識を修得するとともに、法制度の問題点についても理解を深める。		供述心理学、目撃証言の心理学に関するこれまでの知見について理解するとともに、捜査や裁判、さらには、冤罪に関わる未解決の問題点について把握し、これを解決するための思考力と判断力を身につける。		犯罪の発生要因について、個人、対人関係、社会、文化といった多様な視点から理解を深めるとともに、非行・犯罪に対して心理学がどのようにアプローチしてきたか、また、犯罪被害および家事事件についての基礎知識を習得する。		犯罪者や非行少年をどのように見立て、具体的にどのような方法で関わっていけばいいのか、また、矯正施設で実施されている科学的査定、処遇および検証について理論的に学び、矯正心理学の基礎知識を修得する。		矯正施設において実施されている心理査定、処遇方法に取り組み、犯罪臨床に関する理解を深め、臨業場面で活躍できる力を身につける。また、被害者が抱える問題やその支援の実情を把握し、被害者支援および犯罪被害予防における心理療法や心理士等の役割について理解する。		捜査心理学、防犯心理学に関する基礎知識を修得するとともに、問題を発見する力、および、それらの問題について考察する力を身につける。		捜査に応用されている心理学の知見や技術について理解するとともに、捜査に関する未解決の問題や雑器に対し、多様な角度から情報を収集・分析することを通して、主体的に問題を解決しようとする実行力を身につける。		演習科目を中心として、卒業論文の作成のための知識と技術を修得する。	